

あとがき

「クラスみんなが頑張る姿を見て、やばいなって思って、自分もやってみようって思って、がむしゃらにやってきたわ。」「友達がいてくれて、ほんまによかったよな。」「現場実習を2日目でやめた時、初めてものすごい挫折を味わって、今のままではいけないと思い、先生に自分のできていないところを聞いて、作業学習で直して、ピンチを乗り越えました。」「今の自分から高1の自分に言いたいことは、しょうもないことでキレるな、考えてから動け、と厳しくアドバイスしたいです。将来の夢は、一人暮らしをして、人の役に立って、仕事をバリバリする社会人になりたいし、できたら結婚もしたいかなあ。」

平成27年2月13日、本研究指定の集大成として「つながる授業」研究・報告会を実施させていただきました。その全体会では、全国からの多くの参加者の前で、卒業を間近に控えた高等部3年生が、「友達」「進路」「将来」をテーマに、成長を振り返り、将来への希望を自分の言葉で堂々と発表してくれました。また、昼の時間帯には、高等部1、2年生による製品販売、抹茶サービス、作業学習のポスター発表などで、会場の体育館はにぎわいました。御参加の方々の突然の質問に、自分の言葉で懸命に応える生徒達の姿がありました。

この2年間、文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業」の研究指定を受け、特に今年度は、子ども達の具体的な姿から研究仮説を検証することとして取組を進めてきました。「つながる授業」研究・報告会当日にも、それぞれの子も達が、卒業後の人生の質を高めながら生きていくための力を付けてきている姿、これを御参加の方々と共有することができたのではないかと思います。

障害があることで、知らず知らずのうちに子ども達の可能性に限界を設けてはいないか、常に私達は意識しておかねばなりません。

そして、障害のあるなしにかかわらず、一人一人をかけがえのない人間として尊重し合える共生社会の形成、それを担う一員として子ども達が成長できるよう、今後も取組を進めてまいります。

上岡先生はじめ御指導、御助言いただきました多くの方々、そして本校の教育活動にはなくてはならない地域の方々や保護者の方々に心より感謝いたしますとともに、引き続きの御理解、御協力をどうぞよろしくお願い致します。

将来



